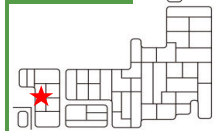


荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。

福祉事業所

熊本県
熊本市



きっかけ

H28年

障害者が農業を通じて自分らしさを見つける姿を見て、農業と福祉に特化した事業所を設立。理念は「自然との共生」で、「生産性ではどこにも負けない」をスローガンに活動を拡大。

人を耕す

- 障害者が草刈り機等を使用する時には、当初は職員がそばで支援・指導等を行っていたが、日々の修練により、単独での作業を実現。また、気候が良い時期には「ごろりTIME」を設けるなど、作業時における健康管理にも留意。
- 福岡矯正管区と連携し、刑務所出所者を職員に採用するほか、利用者、出所者等も職員として採用し、様々な障害を持つ仲間と、笑顔で偏見のない職場環境を実現。

地域を耕す

- 他県の農福連携に取り組む事業者との連携で、きくいもの栽培・販売を始め、地元スーパー、青果企業等の安定した新たな販路を確保。
- 農福連携に係るイベントのほか、地元のお祭り等、地域のイベントに参加。

未来を耕す

- 自社農場で生産した野菜を使用した「モっちゃん水餃子」を地元のアナウンサーや中華料理店とのコラボで開発。地域や福岡の百貨店へ出店。
- 熊本福祉会が発起人となり、「熊本県農福連携協議会」を設立。地域の農福連携の普及拡大を目指し、第一生命、JA、熊本県農業法人協会等と連携。

基本情報

設立:H28年/農福連携取組開始:H28年

取組

主力商品

(農作物)だいこん、じゃがいも、たまねぎ きくいも 等
(加工品)水餃子

概要

NPO法人熊本福祉会

(就労継続支援A型事業所:翔 就労継続支援B型事業所:煌)

- 施設外就労受託 (近隣農家→熊本福祉会)
- 熊本県より受託(熊本県農福連携コーディネーター(マッチング事業))
- 自社農場栽培(市内スーパー等への販売・イベントにての販売・無人販売所開設)
- 6次産業化に向けた商品開発(地元食材を使った“モっちゃん水餃子”の開発・販売)
- 熊本県農福連携協議会 主幹団体としての同会運営・農福連携の促進

体制図

TEL / 096-353-7700

Mail / fukushikai-syou@athena.ocn.ne.jp

成果

平均賃金月額

A型:69,763円(H30)
→84,895円(R5)

事業所の利用者

A型:9人(H30)
→14人(R5)
B型:10人(R4)
→17人(R5)

売上高

1,122千円(H30)
→18,520千円(R5)

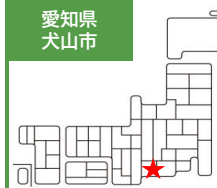
農地面積

20a(R4)
→70a(R5)

- 農業を通した就労支援により、業績が向上した結果、就労継続支援A型事業所利用者をR3年に3名、R5年に1名を職員として雇用。現在は農業のエキスパートとして活躍。
- ほ場はすべて点在するかつての休耕地・荒廃農地であり、地域の農業拡大に寄与。
- 県内の大学と連携し、規格外野菜を活用した子ども食堂への食事提供を実施。

米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・販売等を通じて、誰ひとり取り残さない居場所を創出。

農業経営体

愛知県
犬山市

きっかけ

R元年

IT企業を経営し、全国の障害児通所施設を顧客に持つ代表が、農福連携推進フォーラムに参加したことをきっかけに、農福連携を知り、農福連携に取り組む農業法人を設立。

人を耕す

- 米の生産・加工・販売、バウムクーヘンの加工・販売等を通じて、45名(R5年度)の障害者の働く場を創出。
- 社内に職場適応援助者養成研修受講者2名、精神・発達障害者しごとサポーター養成講座受講者1名を配置し、個々の障害者の能力や適性に応じた作業選定等を実施。

地域を耕す

- 農福連携を通じて地域の農家との交流が深まり、地域の要望に応える形で荒廃農地を再生し、農地面積を拡大。
- 犬山市の農業委員や愛知県農村生活アドバイザーとして地域農業の発展に貢献。

未来を耕す

- ドローンによるほ場管理や肥料散布を実施。子ども向けの自動走行田植え機の試乗イベントの開催等、スマート農業を体験できる取組を実施。
- 持続可能な農業の形を実現する4社合同プロジェクトとして、マイナビ農業、ノタス、アグベル(ぶどう農家)、ココトモファームで商品開発を行い、全国に発信。

基本情報

設立: R元年/農福連携取組開始: R元年

取得認証等: 認定農業者

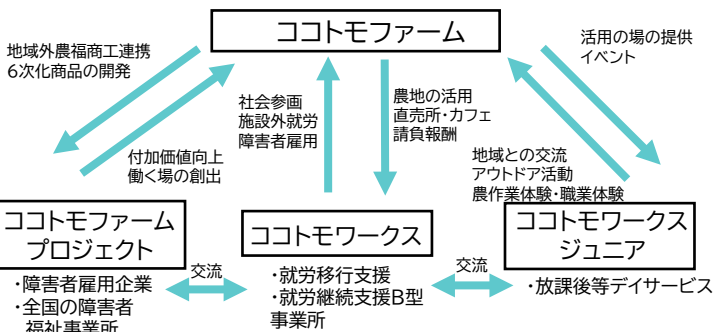
取組

成果

主力商品

(農作物)米
(加工品)米粉バウムクーヘン

特徴的な取組
スマート農業



障害者の平均賃金月額

180千円(R2)
→210千円(R5)
※正社員のみ

障害者雇用数(直接雇用)

2人(R2)
→11人(R5)
※正社員及びアルバイト

売上高

32,802千円(R2)
→426,575千円(R5)

農地面積

8.2ha(R2)
→8.7ha(R5)

- 施設外就労で受け入れていた障害者のうち、2名を正社員として雇用。
- 直売所やカフェの来店者は年間約22.7万人(R5年度)。海外からの訪問客も増加。
- 農福連携や6次産業化の取組の見学を多数受入れ(R5年度は120組)。韓国からの農業研修の受入れも実施。
- 全国の福祉施設等へ講演会を実施(R5は40回)。
- 岐阜県の企業と6次化商品を開発し、累計5,300個販売。

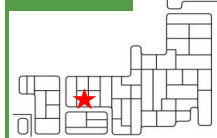
0568-54-4717 / soumu@cocotomo-farm.jp<https://www.cocotomo-farm.jp/>

視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

更新年度: R7.1

障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、果樹栽培、他の事業者の農福連携商品も含めた商品開発、加工・販売など、「商工農福連携」を目指した取組を実施。

農業経営体

広島県
三原市

基本情報

設立:R4年/農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS

きっかけ

R3年

R3年に社会福祉法人宗越福祉会と共に耕作放棄されたぶどう園を受け継ぎ、生活困窮者(障害者含む)の自立支援を目指した農福連携型就労訓練事業を開始。

人を耕す

- 生活困窮者には県の最低賃金以上の給与を支払い、自立支援を図るほか、特性に応じた働き方を提供し、多様な支援環境を整備。
- 宗越福祉会、広島県立黒瀬高校、八天堂ファームで協定を締結。生活困窮者の予備軍である若者には教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す活動をR5年から開始。

地域を耕す

- R4年から地域のスーパーでぶどう販売を開始。収穫量は4,000房(R3)から14,000房(R6)に増加し、R6年は4つのスーパーで販売。
- 地域高齢者の雇用、障害者による選果や包装のほか、県立三原特別支援学校との商品開発や、高校生のボランティアの受入れも実施。

未来を耕す

- 「ノウフクの理念の啓蒙・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携産品を活用してジャムや「くりむパン」を開発し、商品開発や販路拡大に取り組む。ノウフクJASを取得。
- R6年に広島県と3市(三原市、竹原市、東広島市)と連携して、「農福コンソーシアムひろしま」を立上げ。

取組

成果

障害者等の賃金

時給900円(R3)
→時給1,020円(R6)

農作業に関わる障害者数

4人(R6)

農地面積

81.29a(R5)

コンソーシアム加盟事業者

7事業者(R6)

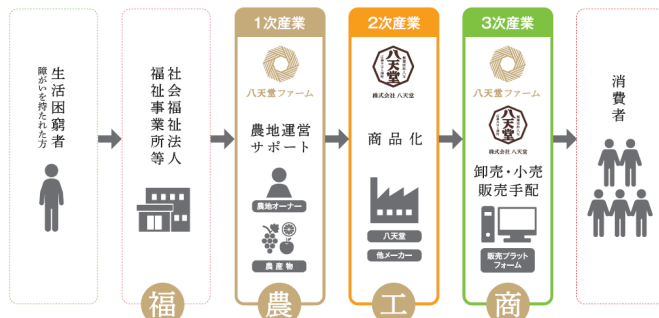
- ひきこもりの状態にある者がほ場での勤務をきっかけに運転免許を取得するなど、行動が変化。
- 農福連携産品を活用した「バターサンドウィッチ」を開発し、「ナチュラルローソン」で販売されるなど、積極的に販路を開拓。

概要

主力商品

(農作物)ぶどう、いちじく
(加工品)くりむパン、バターサンドウィッチ特徴的な取組
環境保全型農業

体制図



TEL:0848-62-2645/Mail:y_hayashi@hattendofarm.co.jp

URL:https://hattendofarm.co.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

更新年度:R7.1